

若狭湾水中散歩

17

京大水産 実験所 益田 玲爾

クロダイ

群れでいることが多いよ

うに思う。

クロダイは初夏に産卵

する。夏の終わりの今頃

は、海水浴場の波打ち際

の「ごく浅いところで」、

三枚の稚魚をよく見かけ

る。一方、藍卵を済ませ

た親たちは、写真のよう

に腹をすかせて、海の浅

いところをうろうろして

いる。たいていの魚は小

さいころには沢山が集

まつて群れを作り、大き

くなるとやや少數の群れ

かまたは単独になる。と

ころがクロダイは、稚魚

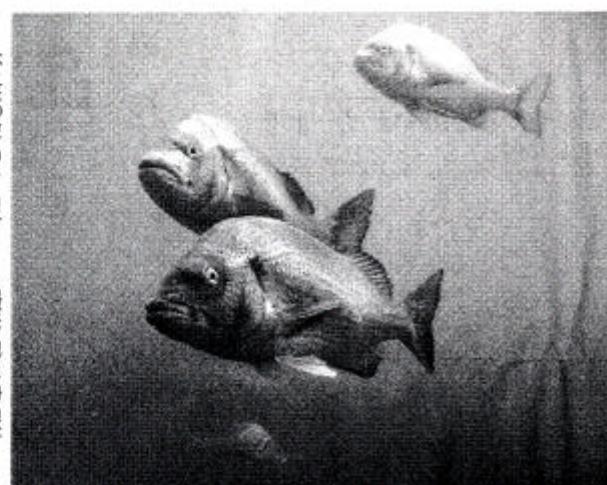
の頃は単独であり、そし

て大きく成長したもののが

鶴湾内でも、由良川河口



体長45センチのクロダイ=撮影地は伊根町
カルビ浜、水深2メートル



ない。よほど魚に似てる人ならいざ知らず、海の中に足を踏み入れる我々は彼らにとって、敵か、餌かのどちらかだろう。

でも、潜っていてふと周囲に感圧感を感じると、マダイに較べてクロダイは、岸に近く浅いところと聞まることが多い

17

17

追伸

来る九月七日、東舞鶴のしおじブザで開催される「ふるさと海づくり

大会」において、京都大学水産実験所として生きた魚を展示することになりました。若狭湾で出された様々な光景を再現した水槽を観覧企画中。ひやかし歓迎。